

小田原厚木道路の概要

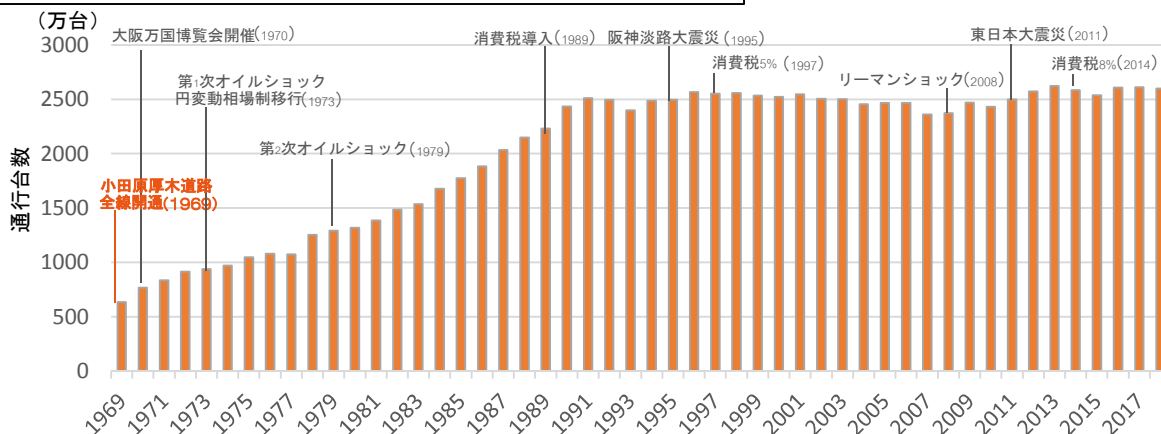


路線概要

- 路線名 小田原厚木道路(一般国道271号)
- 起終点 自)神奈川県厚木市 至)神奈川県小田原市
- 通過市町村 1県4市2町
- 設計速度 80 km/h
- 全体事業費 約760億円(小田原厚木道路全線4車線開通時)
- 1日あたりのご利用台数 約7.2万台/日(2017年度)



- 小田原厚木道路の利用台数は約2,600万台/年



- 小田原厚木道路の経済波及効果は、1969年からの累計で約3.0兆円。

小田原厚木道路の概要



小田原厚木道路の歴史

西暦	できごと
1964年	小田原厚木道路の事業許可、起工式
1969年	小田原厚木道路 全線対面通行（暫定2車線）で開通 
1972年	平塚IC～厚木ICを立体且つ4車線拡幅する事業変更を認可
1974年	小田原西IC～平塚ICを立体且つ4車線拡幅する事業変更を認可
1979年	小田原厚木道路 全線開通（4車線） 荻窪IC開通
1997年	小田原本線料金所（TB）で全国初のETC実用化試験を開始 
1999年	平塚PA（上り線）営業終了、大磯PA（上り線）営業開始
2002年	小田原西ICと西湘バイパスが接続
2003年	平塚PA（下り線）営業開始
2005年	道路関係四公団の民営化により日本道路公団から中日本高速道路に移管
2018年	小田原東IC～荻窪IC間の川端高架橋の床版取り替えリニューアル工事

小田原厚木道路開通1969年



小田原本線料金所で全国初のETC実用化試験1997年



整備効果①: 東京から観光地へのアクセス向上

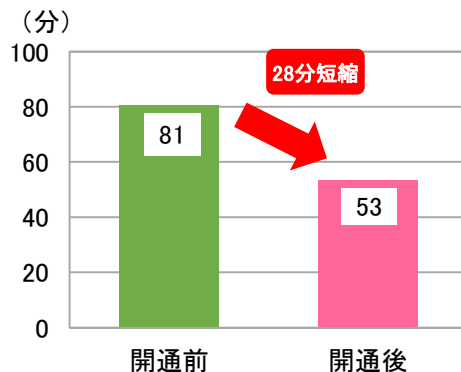
東京から箱根等の観光地へのアクセスが向上！
観光地への来訪客数が約1.6倍に増加！



東京からの所要時間が短縮し、観光地へアクセス向上

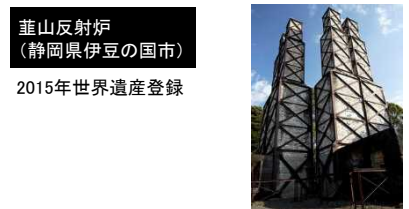
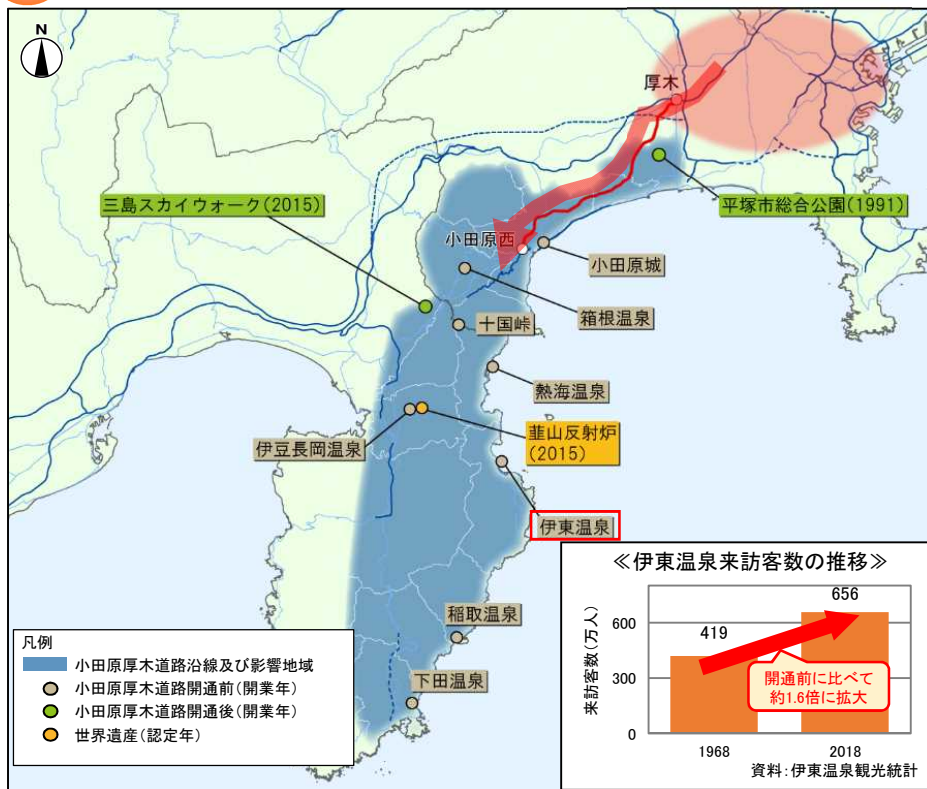


《東京から箱根への所要時間の変化》



※所要時間は12時間平均旅行速度を用いて算出
資料: 平成27年全国道路・街路交通情勢調査(国土交通省)

観光地へのアクセスが向上！温泉地への来訪客数が1.6倍に増加！



《観光協会・自治体の声》



- 小田原厚木道路が圏央道などの周辺道路とアクセスが良くなり、毎月大磯港で開催している「大磯市」等に**北関東方面の来磯者が増加**しています。(大磯町観光協会)
- 首都圏はもとより、小田原厚木道路・圏央道の開通によって他県からの**移動時間が短縮**にされ、**観光客の増加**に繋がっています。(小田原市観光協会)
- 首都圏からの交通手段としてバス及び自家用車が約75%、その他が約25%となっています。
小田原厚木道路の開通により、**自動車による来遊客数の増加**しております。(伊東市観光課)

整備効果②:活気あるまちづくりへの貢献

沿線地域が活性化し、人口の増加(約1.6倍)に大きく貢献！
人口集中地区の面積が約4.6倍に増加！



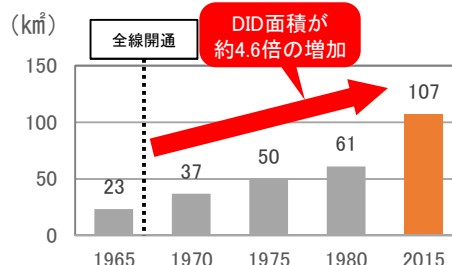
小田原厚木道路沿線のDID面積が4.6倍に増加し、人口も約1.6倍に増加

《人口集中地区(DID)の変遷》

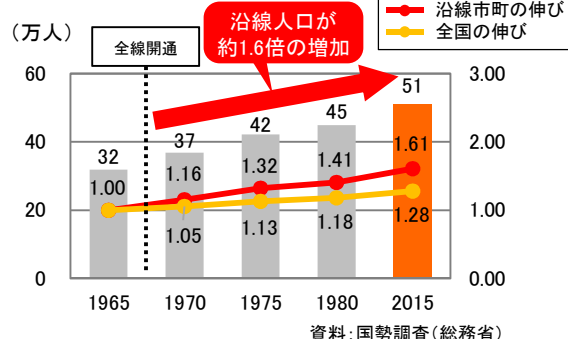


※沿線市町とは、
神奈川県:平塚市、大磯町、二宮町、小田原市

《沿線市町のDIDの面積の変化》

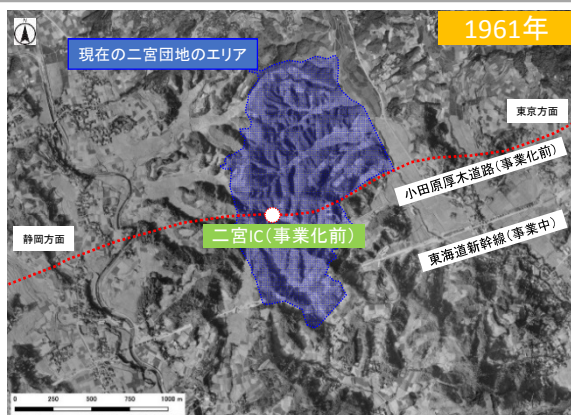


《沿線市町の人口の変化》



二宮IC周辺の昔と今

- 二宮町は、大都市圏へのアクセスが良く、豊かな自然環境にも恵まれ、気候温暖で良質な住宅地として、**小田原厚木道路の開通などを契機に発展**。
- 人口の増加**や**人口集中地区(DID)が増加**するなど地域の発展に寄与している。



資料:国土地理院ウェブサイト



《沿線自治体の声》



- 小田原厚木道路は、生活に欠かせない道路になっています。(二宮町)
- 首都圏から本町への自動車交通における**主要なアクセスルート**となり、町民や観光客をはじめとする人的移動や物流に重要な役割を担い、**本町の観光振興や町民生活に大きく貢献**しています。(箱根町)
- 東名高速道路へのアクセスがあるので、都心(用賀IC)から1時間で来られる場所になり、**車でのお来訪者が増加**しました。(大磯町)

資料:2019年4月ヒアリング調査結果

整備効果③: 地域の特産品出荷を支援

地域の特産品の出荷の拡大に大きく貢献！
生産地と消費地の結びつきが強化！



東京都中央卸売市場における「かまぼこ」のシェアが1位に！

- 小田原厚木道路沿線地域は、箱根山につながる山地や相模湾に面するなど自然に恵まれた地域で、農産物の生産や多種多様な水産物が水揚げされている地域。
- 新鮮な魚や水産加工品などが大消費地の首都圏に出荷されており、小田原厚木道路が生産地と消費地とを密接に結んでいる。



《かまぼこ製造業者の声》



○当社のかまぼこは、食の安全を求めて無添加としてから30年位経過しました。無添加であるため日持ちがしないことや、小田原の良い水で作ってこそその商品と考えているので、遠方への発送はほんの一部です。主要な出荷先は箱根エリア、関東圏、御殿場エリアで、小田原厚木道路は、**首都圏への出荷に欠かせない道路**となっています。

資料: 2019年4月ヒアリング調査結果

整備効果④：日常生活をより便利に

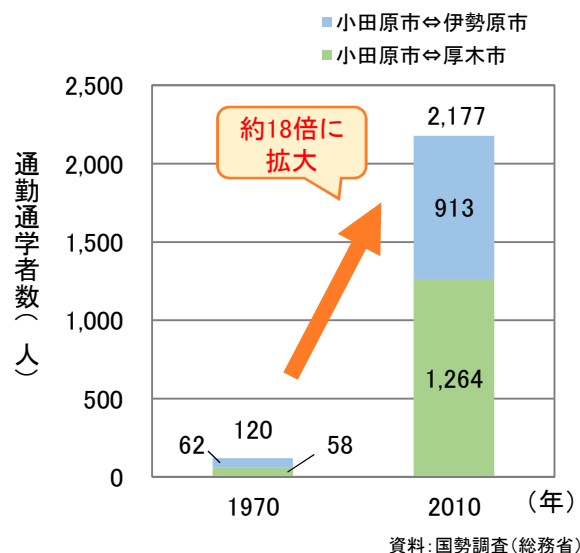
小田原市⇄市外の自動車等の通勤・通学者数が約18倍に増加
生活の利便性向上に大きく貢献



小田原市と厚木市・伊勢原市との間の自動車等の通勤・通学が約18倍に増加



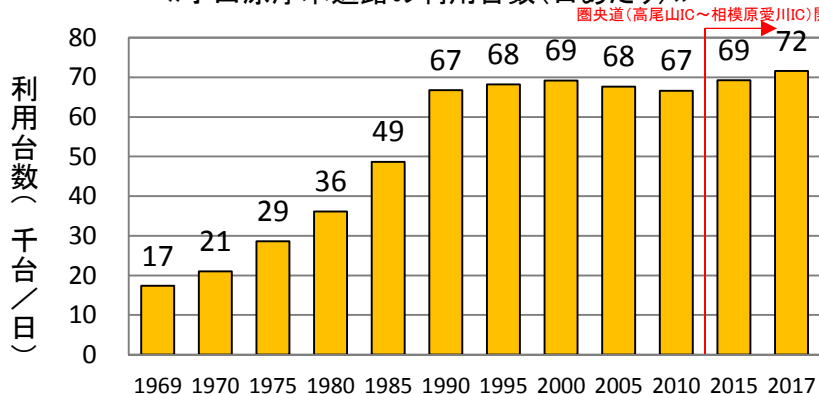
《小田原市⇄厚木市・伊勢原市の自動車等の通勤通学者数》



小田原厚木道路（厚木IC～小田原西IC）の利用状況

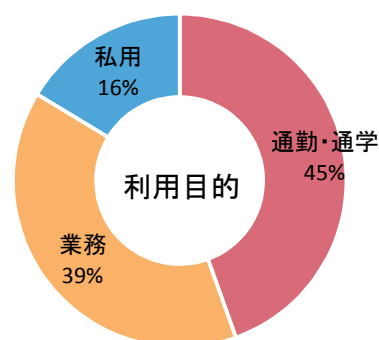
- 小田原厚木道路は、神奈川県西部の主要都市を結び、東名高速道路との接続により広域ネットワークを形成。
- 小田原厚木道路開通以後は、2017年度までに約10億台の利用。
- 1日あたり約7.2万台が通行し、約5割が通勤目的、約4割が業務目的での利用。

《小田原厚木道路の利用台数（日あたり）》



資料：中日本高速道路株式会社調べ
※利用台数は、各料金所を通過した台数のカウント

《小田原厚木道路の利用目的》



資料：2015年交通センサスODマスター（国土交通省）

《小田原市内企業の声》



- 当社には従業員が約700人います。従業員は小田原市以外にも小田原厚木道路を利用して厚木市や藤沢市から通っている従業員も多くいます。
- また、小田原東インターを降りてすぐのところに工業団地があり、そこに当社のライン工場があります。このライン工場と当施設店舗を繋ぐ道路としても、小田原厚木道路は非常に重要です。

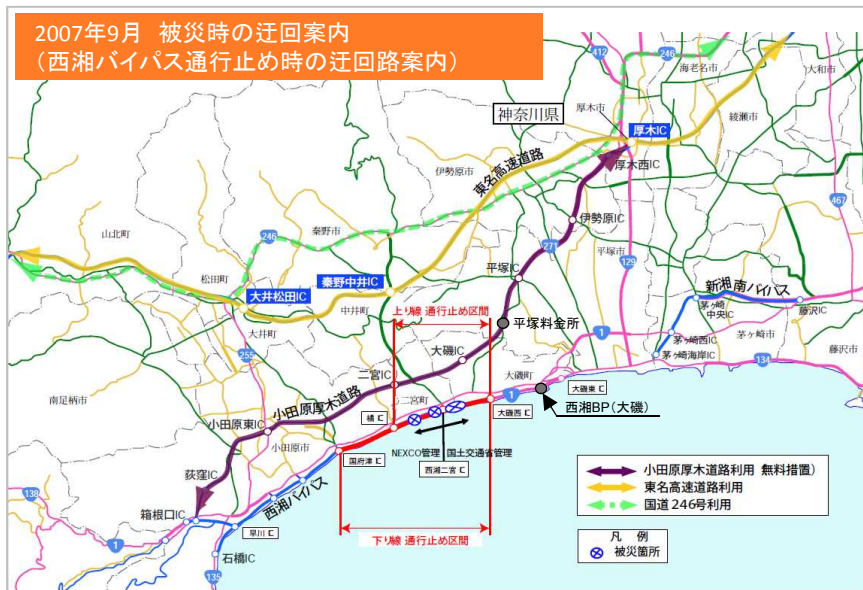
資料：2019年4月ヒアリング調査結果

整備効果⑤: 災害時等における代替路としての機能
 並行道路の代替路としての機能を発揮！
 災害時等の東西のネットワーク確保に大きく貢献！



西湘バイパスの代替路として機能

○2007年9月6日から7日にかけて、関東地方を襲った台風9号により、西湘バイパスが被災し、9月5日15:30～9月27日11:00まで通行止めを実施。(9月27日11:00に暫定開通)
 ○西湘バイパスの交通が小田原厚木道路により転換したことで、交通量が約1.5倍増加し、ネットワークの確保に寄与した。

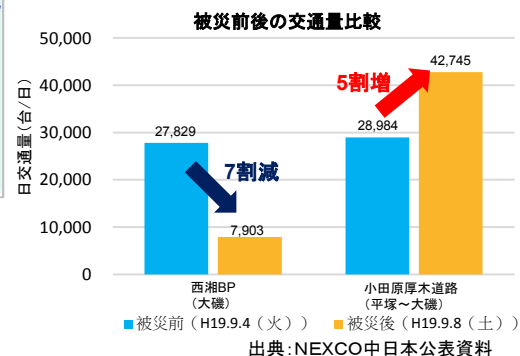


出典: NEXCO中日本公表資料



出典: 国土交通省関東地方整備局 横浜国道事務所

小田原厚木道路によりネットワークを確保



東名高速道路の代替路として機能

○2016年6月から7月の3夜間で新東名高速道路の建設工事に伴い、東名高速道路(厚木IC～秦野中井IC)の夜間通行止めを実施。
 ○国道246号とともに、**迂回路としての機能**を担った。

